



TITLE:

兵庫医科大学泌尿器科学教室における1983年の臨床統計

AUTHOR(S):

生駒, 文彦; 森, 義則; 有馬, 正明; 黒田, 治朗; 島田, 憲次; 島, 博基; 井原, 英有; ... 田口, 恵造; 藤末, 洋; 土井, 康裕

CITATION:

生駒, 文彦 ...[et al]. 兵庫医科大学泌尿器科学教室における1983年の臨床統計. 泌尿器科紀要 1985, 31(4): 639-645

ISSUE DATE:

1985-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/118461>

RIGHT:

兵庫医科大学泌尿器科学教室における1983年の臨床統計

兵庫医科大学泌尿器科学教室（主任：生駒文彦教授）

生駒 文彦・森 義則・有馬 正明・黒田 治朗
 島田 憲次・島 博基・井原 英有・鹿子木基二
 岡本 新司・藪元 秀典・河東 鈴春・大西 洋子
 木野田 茂・西崎 伸也・仲地 研吾・細川 尚三
 荻野 敏弘・松井 孝之・田口 恵造・藤末 洋
 土井 康裕

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS, INPATIENTS
AND OPERATIONS IN 1983

Fumihiko IKOMA, Yoshinori MORI, Masaaki ARIMA, Jiro KURODA,
 Kenji SHIMADA, Hiroki SHIMA, Hideari IHARA, Mototsugu KANOKOGI,
 Shinji OKAMOTO, Hidenori YABUMOTO, Suzuharu KATOH, Yoko ONISHI,
 Shigeru KINODA, Shinya NISHIZAKI, Kengo NAKACHI, Shozo HOSOKAWA,
 Toshihiro OGINO, Takayuki MATSUI, Keizo TAGUCHI,
 Hiroshi FUJISUE and Yasuhiro DOI

*From the Department of Urology, Hyogo College of Medicine
 (Director: Prof. F. Ikoma)*

Statistical studies on 1,990 outpatients, 574 inpatients and 606 operative procedures at our department in 1983 revealed the following. The most frequent diseases among the outpatients were urogenital infections followed by anomalies, tumors and stones. The major diseases among the inpatients were hypospadias, vesicoureteral reflux, congenital urethral stenosis, benign prostatic hypertrophy and bladder tumor. A total of 606 operations were performed on 559 patients, and the five major operations were hypospadias repair (80), TUR-P (54), optic internal urethrotomy (51), ureterocystoneostomy (40) and orchidopexy (34).

Key words: Clinical Statistics, Urology

緒 言

1973年兵庫医科大学開設以来、当教室では一般泌尿器科に加え、小児泌尿器科を主題のひとつとして臨床診療および研究を続けている。1982年の臨床統計¹⁾にひきつづき、1983年度の外来患者、入院患者および手術について臨床統計をおこなったので報告する。なお1983年8月より腎移植がはじめられた。

外来患者総計

1983年度の外来新患者数は1,990名であり、昨年度

とほとんど変りなかった。性別では男子1,279名、女子711名であり、男女比は1.8:1である。年齢分布はTable 1に示ごとく、14歳以下の小児患者は568名と28.5%をしめた。疾患別では感染症551名(27.7%)、先天性異常301名(15.1%)、腫瘍197名(9.9%)、結石196名(9.9%)、外傷19名(1.0%)の順に多く、その他の疾患は726名(36.5%)であった。尿路性器感染症(Table 2)では膀胱炎がもっとも多く、前立腺炎がそれについていた。結核は新患者では1名のみであった。尿路性器先天性異常(Table 3)では、包茎、VUR、尿道下裂、停留睪丸の順に多かった。尿路性

Table 1. 外来患者（新患）年齢分布

年齢(歳)	男	女	計
0～4	190	43	233
5～9	131	81	212
10～14	82	41	123
15～19	46	16	62
20～29	120	69	189
30～39	158	105	263
40～49	146	106	252
50～59	123	109	232
60～69	139	91	230
70～79	119	44	163
80～89	25	6	31
計	1,279	711	1,990

Table 2. 尿路性器感染症（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎結核	0	0	0	1	1
腎盂腎炎	11	7	22	25	65
膀胱炎	15	14	20	217	266
尿道炎	5	55	0	1	61
前立腺炎	0	91	0	0	91
亀頭包皮炎	26	13	0	0	39
副睾丸炎	5	23	0	0	28
計	62	203	42	244	551

Table 3. 尿路性器先天性異常（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎奇形	1	4	0	1	6
先天性尿管狭窄	1	0	0	1	2
VUR	19	0	29	4	52
尿管瘤	0	1	5	2	8
異所開口尿管	0	0	3	1	4
腎盂尿管移行部狭窄	11	1	4	1	17
尿管膀胱移行部狭窄	2	0	0	1	3
後部尿道弁	3	0	0	0	3
尿道リング狭窄	9	3	0	0	12
遠位部尿道狭窄	0	0	14	11	25
停留辜丸	44	0	0	0	44
包茎	54	21	0	0	75
尿道下裂	44	2	0	0	46
女性半陰陽	0	0	2	0	2
陰唇癒合	0	0	2	0	2
計	188	32	59	22	301

器腫瘍（Table 4）では、前立腺肥大症を除けば膀胱腫瘍、腎腫瘍、前立腺癌の順であった。尿路結石（Table 5）では尿管結石がもっとも多く、ついで腎結石であり上部尿路結石が91%をしめた。尿路性器外傷（Table 6）は19例の経験のみであった。そのほか

Table 4. 尿路性器腫瘍（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎腫瘍	0	14	0	2	16
腎盂腫瘍	0	2	0	0	2
尿管腫瘍	0	3	0	1	4
膀胱腫瘍	0	21	0	5	26
前立腺癌	0	11	0	0	11
前立腺肥大症	0	118	0	0	118
陰茎癌	0	1	0	0	1
辜丸腫瘍	0	5	0	0	5
副辜丸・精索腫瘍	0	1	0	0	1
尿道カルンケル	0	0	0	13	13
計	0	176	0	21	197

Table 5. 尿路結石（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎結石	3	29	1	20	53
腎尿管結石	0	9	1	5	15
尿管結石	1	77	0	33	111
膀胱結石	0	6	0	0	6
前立腺結石	0	11	0	0	11
計	4	132	2	58	196

Table 6. 尿路性器外傷（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎外傷	2	2	0	0	4
尿管外傷	0	1	0	2	3
尿道外傷	0	4	0	0	4
辜丸外傷	2	2	0	0	4
陰茎外傷	2	1	0	0	3
陰唇外傷	0	0	1	0	1
計	6	10	1	2	19

の疾患（Table 7）では夜尿症111名（5.6%）、神経因性膀胱80名（4.0%）、原因不明の血尿74名（3.7%）、膀胱頸部狭窄47名（2.4%）が多い疾患であった。

入院患者統計

入院患者数は574名であり、再入院をふくめた延べ入院患者数では618名であった。性別では男子450名、女子124名と男女比は3.6:1であり、外来患者より男女比は高くなっている（Table 8）。年齢別では14歳以下の小児患者が257名と半数近くをしめた。

以下、各疾患を臓器別にわけ、表に示すが、入院患者については複数の病名をもつものはそのおのおのを数えたので延べ疾病名数となる。

Table 7. そのほかの疾患（外来）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
夜尿症	79	0	31	1	111
神経因性膀胱	3	50	1	26	80
神経性頻尿	0	4	2	9	15
腹圧性尿失禁	0	0	0	6	6
膀胱癌	0	0	0	2	2
特発性腎出血	2	7	0	8	17
原因不明の血尿	5	25	5	39	74
糸球体腎炎	8	8	8	9	33
蛋白尿	1	2	1	0	4
乳糜尿	0	1	0	1	2
遊走腎	0	1	0	8	9
腎性高血圧	0	1	0	1	2
腎囊胞	0	6	0	9	15
男性不妊	0	38	0	0	38
インポテンツ	0	6	0	0	6
睾丸機能不全	2	5	0	0	7
尖圭コンジローム	0	3	0	0	3
陰莖折症	0	1	0	0	1
血精液症	0	4	0	0	4
陰嚢水腫	18	8	0	0	26
精液癌	0	1	0	0	1
精索静脈瘤	4	4	0	0	8
睾丸回転症	1	2	0	0	3
睾丸垂回転症	2	0	0	0	2
尿管狭窄	0	8	0	6	14
膀胱頸部狭窄	0	47	0	0	47
尿道狭窄	1	19	0	0	20
尿道憩室	1	0	0	1	2
膀胱憩室	0	0	0	3	3
尿道脱	0	0	0	2	2
結腸膀胱瘻	0	1	0	0	1
尿管瘻	0	0	0	1	1
膀胱子宮瘻	0	0	0	2	2
膀胱異物	0	1	0	0	1
原発性副甲状腺機能亢進症	0	0	0	1	1
二次性副甲状腺機能亢進症	0	6	0	6	12
慢性腎不全	0	4	1	6	11
泌尿器科的正常	16	60	12	52	140
計	143	323	61	199	726

1. 腎疾患 (Table 9)

腎結石31例（28.7%）、腎細胞癌18例（16.7%）、腎盂尿管移行部狭窄16例（14.8%）が多く、慢性腎不全の10例は腎移植および副甲状腺全摘除術のため入院したものである。

2. 尿管疾患 (Table 10)

VUR 59例（53.6%）が尿管疾患の過半数をしめ、つぎが尿管結石19例（17.3%）であった。尿管腫瘍は6例経験し、比較的まれとされる尿管癌および異所開口尿管もそれぞれ6例経験した。

3. 膀胱疾患 (Table 11)

膀胱腫瘍42例（46.2%）、神経因性膀胱13例（14.3%）、膀胱頸部狭窄13例（14.3%）が多かった。ピルハルツ膀胱炎の症例は中近東を旅行した日本人にみとめられたものであり、詳細は泌尿器科紀要に投稿中の

Table 8. 入院患者年齢分布

年齢(歳)	男	女	計
0～4	109	22	131
5～9	63	28	91
10～14	27	8	35
15～19	9	1	10
20～29	23	7	30
30～39	14	9	23
40～49	36	12	48
50～59	39	14	53
60～69	49	10	59
70～79	66	12	78
80～89	15	1	16
計	450	124	574

Table 9. 腎疾患（入院）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎細胞癌	0	14	0	4	18
ウィルムス腫瘍	1	0	0	0	1
腎血管筋脂肪腫	0	1	0	0	1
腎盂腫瘍	0	2	0	0	2
腎結石	6	12	0	13	31
腎囊胞	0	7	0	2	9
急性腎盂腎炎	0	1	1	1	3
腎結核	0	0	0	1	1
特発性腎出血	1	2	0	2	5
腎性高血圧	0	1	0	0	1
腎動静脈奇形	0	0	0	1	1
腎外傷	0	2	0	0	2
腎盂尿管移行部狭窄	12	3	1	0	16
馬蹄腎	2	1	1	0	4
囊胞腎	0	0	0	1	1
多囊腎	1	0	0	0	1
慢性腎不全	0	5	0	5	10
腎提供者	0	0	0	1	1
計	23	51	3	31	108

Table 10. 尿管疾患（入院）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿管腫瘍	0	5	0	1	6
尿管結石	1	13	0	5	19
尿管狭窄	0	4	0	1	5
VUR	26	2	29	2	59
尿管癌	1	1	4	0	6
異所開口尿管	1	0	4	1	6
大静脈後尿管	0	1	1	0	2
巨大尿管	4	1	0	0	5
医原性尿管損傷	0	0	0	2	2
計	33	27	38	12	110

Table 11. 膀胱疾患 (入院)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
膀胱腫瘍	0	37	0	5	42
二次性膀胱腫瘍	0	0	0	3	3
膀胱結石	1	7	0	0	8
膀胱憩室	3	1	0	1	5
神経因性膀胱	4	7	1	1	13
膀胱頸部狭窄	0	13	0	0	13
放射線性膀胱炎	0	0	0	2	2
ビルハルツ膀胱炎	0	1	0	0	1
膀胱膿瘍	0	0	0	1	1
膀胱子宮瘻	0	0	0	1	1
膀胱結腸瘻	0	1	0	0	1
膀胱異物	0	1	0	0	1
計	8	68	1	14	91

Table 12. 尿道疾患 (入院)

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿道カルシケル	0	0	0	1	1
尿道リング狭窄	27	13	0	0	40
遠位部尿道狭窄	0	0	13	2	15
後部尿道弁	10	0	0	0	10
前部尿道弁	2	0	0	0	2
後天性尿道狭窄	3	7	0	0	10
外尿道口狭窄	2	0	0	0	2
尿道脱	0	0	0	2	2
尿道憩室	1	0	0	1	2
尿道外傷	0	2	0	0	2
尿道皮膚瘻	1	0	0	0	1
傍尿道嚢胞	0	0	1	0	1
計	46	22	14	6	88

Table 13. 前立腺疾患 (入院)

疾患名	男		計
	小児	成人	
前立腺肥大症	0	51	51
前立腺癌	0	18	18
前立腺結石	0	2	2
急性前立腺炎	0	1	1
計	0	72	72

論文に発表される。

4. 尿道疾患 (Table 12)

男子の先天性球部尿道リング状狭窄40例 (45.5%), 女子の遠位部尿道狭窄15例 (17.0%), 後部尿道弁

Table 14. 陰茎・陰囊疾患

疾患名	男		計
	小児	成人	
尿道下裂	78	5	83
尿道上裂	2	1	3
嵌頓包茎	0	1	1
完全包茎	10	0	10
陰茎癌	0	2	2
陰茎外傷	1	0	1
陰茎折症	0	1	1
陰茎欠損症	1	0	1
陰茎前位陰囊	1	0	1
睾丸腫瘍	0	5	5
停留睾丸	29	1	30
睾丸低形成	3	0	3
陰囊水瘤	5	4	9
精索静脈瘤	3	0	3
睾丸回転症	1	4	5
睾丸垂回転症	2	0	2
副睾丸炎	1	1	2
副睾丸腫瘍	0	1	1
精液瘤	0	1	1
転移性精索腫瘍	0	1	1
精索結核腫	0	1	1
計	137	29	166

10例 (11.4%), 後天性尿道狭窄10例 (11.4%)が多かった。小児泌尿器科において、尿道リング狭窄、遠位部尿道狭窄および後部尿道弁は重要な下部尿路通過障害である。

5. 前立腺疾患 (Table 13)

前立腺肥大症が51例 (70.8%) とほとんどであったが、前立腺癌を18例経験した。

6. 陰茎・陰囊疾患 (Table 14)

尿道下裂83例 (49.7%), 停留睾丸30例 (18.0%)が多かった。陰茎欠損症の1例は再入院症例である。

7. その他の疾患 (Table 15)

二次性副甲状腺機能亢進症の8例は、慢性腎不全のため血液透析中の患者で、副甲状腺亜全摘除術のため入院した。女性半陰陽の5例はいずれも副腎性器症候群の症例で外陰部形成術のために入院した。鎖肛術後の4例は鎖肛に合併した泌尿器疾患の診断、治療のために紹介され入院した患者である。

手術統計

559症例に延べ606回の手術をおこなった。このなかには外来でおこなった小手術は含まれていない。606回のうち273回 (45.1%) は小児患者に対する手術で

Table 15. そのほかの疾患（入院）

疾患名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
後腹膜腫瘍	0	2	0	0	2
副腎腫瘍	0	0	0	1	1
男性半陰陽	2	1	0	0	3
女性半陰陽	0	0	5	0	5
陰唇癒合	0	0	1	0	1
男子小子宮	2	0	0	0	2
ブルン・ペリー症候群	1	0	0	0	1
泌尿生殖洞奇形	0	0	1	0	1
原発性副甲状腺機能亢進症	0	0	0	1	1
二次性副甲状腺機能亢進症	0	4	0	4	8
鎖肛術後	4	0	0	0	4
計	9	7	7	6	29

Table 16. 腎の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
腎切石術	0	4	0	4	8
腎瘻術	3	3	0	1	7
腎盂切石術	4	9	0	3	16
腎部分切除術	0	1	0	2	3
腎摘除術	1	22	0	6	29
半腎摘除術	1	0	1	0	2
腎尿管摘除術	2	3	0	1	6
腎盂形成術	12	2	2	0	16
腎嚢胞摘除術	0	5	0	2	7
狹部離断術	0	0	1	0	1
腎移植術	0	1	0	1	2
提供腎摘除術	0	0	0	1	1
計	23	50	4	21	98

Table 17. 尿管の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
尿管切石術	1	10	0	1	12
尿管皮膚瘻術	0	3	0	4	7
尿管膀胱新吻合術	12	3	22	3	40
尿管尿管吻合術	0	1	0	0	1
尿管瘻摘除術	1	0	3	0	4
リング尿管皮膚瘻術	1	0	0	0	1
リング尿管皮膚瘻閉鎖術	1	0	0	0	1
回腸導管造設術	0	6	0	1	7
尿管部分切除術	0	1	0	0	1
尿管結紮糸摘除術	0	0	0	1	1
計	16	24	25	10	75

あった。尿道下裂修正手術（索切除術，尿道形成術，外尿道口形成術）80回，TUR-P 54回，直視下内尿道切開51回，尿管膀胱新吻合術40回，睪丸固定術34回がおもな手術であった。

Table 18. 膀胱の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
膀胱瘻術	1	4	0	0	5
TUR-b.t.	0	29	0	3	32
TU-biopsy	1	10	0	4	15
TUR-b.n.	0	15	0	0	15
TUR-尿管瘻	1	1	1	0	3
膀胱全摘除術	0	5	0	1	6
骨盤内臓器摘除術	0	1	0	0	1
膀胱部分切除術	0	3	0	0	3
膀胱砕石術	1	7	0	0	8
膀胱切石術	0	1	0	1	2
膀胱異物摘除術	0	1	0	0	1
膀胱憩室摘除術	1	0	0	0	1
計	5	77	1	9	92

以下，臓器別に手術名を示す。

1. 腎の手術（Table 16）

98回中，腎摘除術29回，腎盂切石術16回，腎盂形成術16回が多かった。腎移植は2回施行したが，生体腎移植および死体腎移植がおのおの1回であった。

2. 尿管の手術（Table 17）

75回中，尿管膀胱新吻合術40回，尿管切石術12回，尿管皮膚瘻術7回，回腸導管造設術7回が多かった。尿管膀胱新吻合術は主にVURに対して施行されたが，術式としては原則的にsuprahiatal and infrahiatal combined methodをおこなっている。

3. 膀胱の手術（Table 18）

92回のうち，TUR-b.t. 32回，TU-biopsy 15回，TUR-b.n. 15回であった。膀胱全摘除術は6回施行し，直腸もふくめた骨盤内臓器全摘除術は1回施行したが，これは直腸に浸潤するムチン産生前立腺癌に対するものであった。

Table 19. 尿道の手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
外尿道口形成術	0	0	17	2	19
直視下内尿道切開術	26	25	0	0	51
内尿道切開術	2	1	0	0	3
TUR-valve	7	0	0	0	7
TU-sphincterotomy	0	1	0	0	1
尿道脱摘除術	0	0	0	2	2
傍尿道嚢胞摘除術	0	0	1	0	1
尿道カルンケル摘除術	0	0	0	1	1
尿道憩室摘除術	1	0	0	0	1
尿道形成術	1	5	0	0	6
計	37	32	18	5	92

Table 20. 前立腺の手術

術名	男		計
	小児	成人	
TUR-P	0	54	0
恥骨後前立腺摘除術	0	1	1
計	0	55	55

Table 21. 陰嚢・陰嚢内容の手術

術名	男		計
	小児	成人	
陰嚢水腫摘除術	5	5	10
精索静脈高位結紮術	3	0	3
除睾術(一側)	5	9	14
除睾術(両側)	0	11	11
睾丸固定術	31	3	34
睾丸回転症整復術	0	1	1
副睾丸垂摘除術	2	0	2
陰嚢試験切開術	1	0	1
陰嚢形成術	3	0	3
計	50	29	79

Table 22. 陰茎の手術

術名	男		計
	小児	成人	
包皮形成術	9	1	10
陰茎切断術	0	2	2
索切除術(尿道下裂)	31	0	31
尿道形成術(尿道下裂)	38	1	39
外尿道口形成術(尿道下裂)	7	3	10
陰茎尿道形成術(尿道上裂)	1	1	2
陰茎折症整復術	0	1	1
計	86	9	95

4. 尿道の手術 (Table 19)

先天性および後天性尿道狭窄に対する直視下内尿道切開術が51回と最も多かった。女子遠位部尿道狭

Table 23. そのほかの手術

術名	男		女		計
	小児	成人	小児	成人	
副甲状腺全摘除術	0	4	0	4	8
副甲状腺腫摘除術	0	0	0	1	1
後腹膜リンパ節廓清術	0	1	0	0	1
女子外陰部形成術	0	0	7	0	7
副腎摘除術	0	0	0	1	1
子宮卵管摘除術	1	0	0	0	1
膈前壁縫縮術	0	0	0	1	1
計	1	5	7	7	20

窄に対する外尿道口形成術は19回施行した。尿道弁に対する TUR は7回施行した。

5. 前立腺の手術 (Table 20)

前立腺に対する手術のほとんどは TUR-P であり54回施行し、恥骨後前立腺摘除術は1回のみであった。

6. 陰嚢・陰嚢内容の手術 (Table 21)

睾丸固定術34回と最も多かったが、これは停留睾丸に対するもののほかに睾丸回転症に対する反対側の予防的睾丸固定術も含んでいる。ついで除睾術25回、陰嚢水腫摘除術10回が多かった。陰茎前位陰嚢に対する陰嚢形成術は3回施行した。

7. 陰茎の手術 (Table 22)

尿道下裂に対する手術が最も多く、索切除術31回、尿道形成術39回、外尿道口形成術10回であった。尿道上裂に対する形成術も2回施行した。

8. そのほかの手術 (Table 23)

二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺全摘除術8回、原発性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺腫摘除術を1回施行した。女子外陰部形成術を7回施行した。副腎摘除術の1回は褐色細胞腫に対して施行されたものであった。

結 語

兵庫医科大学泌尿器科における1983年度の外来・入院患者と手術に関する統計をおこない、次の結果を得た。

1) 外来新患患者数は1,990名で、男子が1,279名、女子が711名であった。おもな疾患は、尿路性器感染症であり、それについて先天性異常、腫瘍、結石であった。

2) 入院患者数は574名であり、男子450名、女子124名であった。小児患者が257名と半数近くをしめた。おもな疾患は、尿道下裂、VUR、先天性尿道狭窄、前立腺肥大症、膀胱腫瘍であった。

3) 手術は559症例に延べ606回施行した。小児泌尿

器科手術が 273 回と 45% をしめた。おもな手術は尿道下裂修正手術，TUR-P，直視下内尿道切開術，尿管膀胱新吻合術，睪丸固定術であった。

理作・木野田 茂・大西洋子・仲地研吾・田口恵造・西崎伸也・藤末 洋・松井孝之・黒田治朗・鹿子木基二：兵庫医科大学泌尿器科学教室における 1982 年の臨床統計。泌尿紀要 29：1127～1132, 1983

文 献

1) 生駒文彦・森 義則・島田憲次・岡本新司・川口

(1984 年 9 月 4 日受付)